

せいらんそう

社会福祉法人
芳香会誌
第 1 4 号
2011年5月発行



たま保育園 卒園式

ご卒園おめでとうございます。将来の希望職業を説明してくれています。がんばれ！

もくじ

CONTENTS

四月一日付辞令交付・・・2	青嵐荘路のとう舎・・・4	地域貢献への取り組み・・・5
総務マンネリからの脱出・・・2	青嵐荘つくし園・・・4	芳香会活動報告・・・6
芳香会社会福祉研究所 開設に寄せて・・・3	EPA介護福祉士候補者 受け入れ二年目を迎えて 二年目を迎えて・・・5	芳香会スケジュール・・・6
障害児者施設トピックス 青嵐荘療護園・・・4	候補者へのインタビュー・・・5	編集後記・・・6
青嵐荘療育園・・・4		



この度の東日本大震災において被災されました方に心よりお見舞い申し上げます。
一日も早い復旧・復興をお祈りしております。

四月一日付辞令交付

春を迎え新年度となりまして、四月から新しい生活がはじまるのは新任職員だけではありません。平成二十三年三月二十九日・三十日の二日間に分け、新年度に新たな役職や異動、本採用等の職員を対象とした辞令交付式を行いました。



例年では新任職員入社式と合同で実施していますが、今回は東日本大震災の影響もあり、宇留野理事長に各事業所へ出向いて頂き実施しました。みなさん緊張した面持ちで、出席されているようでしたが、参加職員一人ひとりへ理事長より手渡にて辞令を交付され、受け取った職員は新鮮な気持ちで新年度を迎える事が出来たようです。

辞令交付式 対象者

管理・幹部職昇格 5名	異動及び職種変更 5名
昇格及び異動 9名	4月1日付採用・配属 3名
雇用変更・本採用 9名	合計 31名

今回の辞令交付者の中には、芳香会奨学金制度を利用する職員も居ります。四月から資格取得を目指し、日々の勉強に頑張っていたのだと思います。

参加された皆様はそれぞれの職種・役職で業務に励まれることと思います。今後も辞令を受け取った際の気持ちをお大切に頂き、ますますご活躍されることを期待しております。

総務 マンネリからの脱出

法人事務局の総務担当が企画・実施する業務には、研修会や諸行事があります。今回は例年にはない新たな形を導入し、内定者親睦会と新任職員研修会を実施しました。新任職員と在職者の皆さんに少しでも役立てることを目標としています。

歩いてそして語り合い

【平成二十三年一月八日】

新任職員にとって同期入社との繋がりは、今後、大きな力になることは間違いありません。しかし、芳香会は九つの事業所からなり、職種も異なる事から、殆どの職員が別々の場所で勤務します。そこで、この内定者親睦会は、内定者同士の交流を図ると共に芳香会へ円滑に入職して頂くために実施しているものです。

今回参加者は十一名。今年度はレクリエーションとして初めて「ウォークラリー」を行いました。芳香会は古河市上大野地区と尾崎地区、結城市七五三場地区の三地区からなり、その間約七・四キロメートル。施設見学を兼ねて歩きました。少し風があったものの天気に恵まれ、少々汗ばむほどでした。

二つのグループに分かれ、上大野地区、尾崎地区それぞれから出発、途中、エコ活動発展事業である花壇に立ち寄り、お花を植えて頂きました。昼食等を含め、全行程四時間半を掛け全員無事にゴールする事が出来ました。



最後まで和やかに会話をしている様子が見られ、内定者同士の親睦を図ることが出来、良い思い出になったことと思います。

書道で締めました

【平成二十三年三月四日・五日】

十六名の参加にて新任職員研修会を行いました。この研修会は、芳香会「友の会」墓地参拝や健康診断、また五つの講義からなります。一日目の夕食は懇親会です。今回は各施設長に加え、昨年度の新任職員である先輩職員にも参加頂き、ビンゴゲーム等で楽しいひとときを過ごしました。先輩からは後輩への励ましの言葉を頂きました。入職して一年が経過し、ひと回り大きく成長した姿はとて頼もしいものでした。



またこの研修会の講義部分は、中途採用職員研修会も兼ねております。今回は、二十二年十一月から勤務している二名のフイリピン人介護福祉士候補者も参加しました。講義の一つでは、社是である「福祉大家」をテーマとした書道を行いました。講師は八段を所持している芳香会事務職員です。皆さん、真剣に取り組み、

見事な作品を書き上げました。各自職務の姿勢について考える良い機会になったことと思います。

平成23年度新任職員

職 種		人数
介護職	高齢者分野	2人
	障害児・者分野	4人
看護	学 生	2人
相 談	員	1人
保 育	士	5人
事 務	員	2人
合 計		16人

芳香会社会福祉研究所

平成二十三年四月一日に「社会福祉法人芳香会社会福祉研究所」を開設致しました。
ここでは研究所を代表する方々の「開設に寄せての思い」を紹介致します。

芳香会附属研究所開設に思うこと

研究所顧問 高山 忠雄

(鹿児島国際大学大学院 教授)

社会福祉施設に研究所を附置するということは実は極めて大きな意味と意義を持つことをまず申し上げ、そこには法人創設者の哲学の存在があるという事でありませぬ。今この時期に社会福祉法人(芳香会)が独自に研究機能を法人内に設置するという英断は、昭和四十五年初代理事長(赤羽輝義先生、当時五十一歳)が医師の立場から社会福祉法人の必要性を地元住民の生活環境等を十分理解し把握した上での決断であったことは後の諸事業を振り返り見ることで図り知ることは十分である。

一方、初代理事長は福祉事業の心髄である継続性に力点を置く一方、我子への教育も将来を見据えた厳しさは半端でなかつたと聞き及び、その結果二代目理事長(故人・医師)、現三代目理事長(社会福祉事業家、研究者)の今日的活躍を知見することで多くの言語を要しない。

このように、福祉領域においても大変厳しい社会情勢下にあつてなお、将来を見据えた着実な発展を確固たるものにするために必須とされる法人内研究所設置は初代理事長からのDNA継承であることを伺い知るのも容易である。

以上、我国においても特筆すべき社会福祉法人附置研究所の果たす役割は多くの人々が注目

するところであるが、真の福祉事業は何も特別な事業を模索するものではなく、常に科学的根拠に基づいた事業展開は誰もが必要とする支援に対し、支援提供を可能にする源泉は研究所機能に存在することを確信し、研究所開設にあつたてのお祝いの言葉といたします。

「絆育力(ぎずなはぐくむちから)」

拠点としての展開に期待

研究部長 安梅 勅江

(筑波大学大学院 教授)

芳香会は設立から四十年、いわば論語の「不惑」、狭い見方に捕らわれることなく、心の迷いがなくなる年齢を迎えています。

家族機能低下、地縁崩壊など大きな変化のうねりを受け、社会福祉の役割とは何かを新たな視点から分析する社会的な要請が高まっています。特に昨今の世界動向として、いかに未来に向かう「人びとのつながりの仕組み」を構築するのか、そのモデルが希求されています。

そこで、芳香会社会福祉研究所には、「絆を育む」拠点としての役割が求められます。人と人、法人と地域、地域と文化、日本と世界との絆を、今後の福祉の十年、五十年、そして百年に向けて紡ぐ起点となります。ここでは社会福祉法人ならではの蓄積を活かした「方法論」の開発が欠かせません。

社会福祉法人の強みは、何よりも当事者の立場に立つた、当事者が参加する、当事者のための支援を実現できる事です。企業や事業体などの福祉分野への進出が活発化する中、「当事者主体」を基盤



とした「絆の育成」のモデルとして、研究機能が発揮されることを大いに期待しています。

社会福祉法人研究所の役割と機能

コミュニケーション・エンパワメント

で築く「つながり」

主任研究員 徳竹 健太郎

(筑波大学大学院博士課程)

昨年六月より芳香会本部、この四月より芳香会社会福祉研究所所属の研究員として活動しております。この間、職員アンケート調査などの研究活動をはじめ、地域貢献活動、職員研修会、会議、災害支援活動などに関わらせていただき、皆様には大変お世話になっております。

この研究所では、科学的根拠に基づいた実践、分析、検証を行い、地域や芳香会へフィードバックすることで、地域の福祉力と芳香会の発展に貢献することを目的に活動いたします。すなわち地域の方々や団体、芳香会職員や利用者、またその家族の皆さんの持っている力を最大限に引き出し効果的に発揮できるよう、その条件や環境を検証し皆さんと作り上げ、地域および芳香会の活性化を目指します。

この「コミュニケーション・エンパワメント」の手法を用いて地域および芳香会の「つながり」がさらに強くなることで、これからの日本における社会福祉法人のあり方のモデルとなることと信じております。

わが国では数少ない社会福祉法人所属の研究所開設にあたり、上記を実践するべく所信述べさせていただきました。今後ともよろしくお願い申し上げます。



障害児者施設トピックス

四十周年に向けて （青嵐荘療護園）

青嵐荘療護園は、昭和五十五年四月一日に開設し、開設三十一年を迎えました。

この三十年の間、様々なことがありました。大きなところでは措置制度から利用契約制度（支援費制度・障害者自立支援法）への移行、小さなものは枚挙に暇がないほど様々な変化があり、そういった状況下でも大過なく施設運営が行えたことは、ひとえに多くの皆様の支援の賜物であります。この場を借りて感謝申し上げます。



三十周年の最後に予定しておりました記念式典（三月十一日）は、前日に発生した東北地方太平洋沖地震の影響で中止とさせていただきますが、これからも一日一日、真摯にサービス提供をさせていただきたいと思っております。そして、五年後、三十五周年を迎えた時、盛大にお祝いすることをお約束します。

訪問教育 （青嵐荘療育園）

青嵐荘療育園では、年間を通して様々な行事を開催しております。ご利用者は、四丁七十一歳の方までいらっしやり、七五三から還暦のお祝いまで様々な年齢層の行事が催されています。

その中でも、訪問教育には修了式等の節目の式典を開催する際、各訪問生の学習発表を企画して頂いています。発表は各訪問生により様々ですが、『問い掛けに返事ができるようになりました』等、各訪問生の能力に合わせた目標設定をされています。訪問生にとっても緊張の場ですが、入所されているご利用者にも学習の成果を見守り・応援して頂く事で心が一つになる機会となっております。

今年度は、小学部二名、中学部三名、高等部二名の七名で訪問教育をスタートしています。授業を通じて、様々な社会経験を積んでいって欲しいと思います。今年度もどんな一年になるか楽しみです。

生活習慣病の予防 （青嵐荘路のとう舎）

青嵐荘路のとう舎では、ここ二、三年の検診で生活習慣病を指摘される方の割合が増え、施設として生活習慣病予防を行うことにしました。

ただ体重減少に着目するのではなく、心の安定を念頭に置き対応を検討した結果、活動の取り組みとして、運動班では散歩を多く取り入れ、午前中一時間・午後一時間半の散歩や室内での腹筋等ストレッチを行ってきました。食事の取り組みとしては、ただ量を減らすのではなく、見た目での工夫や白滝ご飯の導入です。白滝ご飯とは、白滝をミキサーで細かくし充分臭みを取って、米と一緒に炊いたご飯です。カロリーも白米に比べ四割程度落ち、この取り組みを開始してから男性利用者の体重が平均4kg減少しました。その他にも、保護者が集まる際に歯科医師

を招いて、口腔ケアと生活習慣病予防について」と題して講演して頂き、保護者の理解に繋がるよう家族への働きかけも行いました。

今後とも減量することだけに捉われすぎず、利用者の心の安定を念頭に置き、ストレスをためずに、健康的に生活習慣病予防に取り組んでいきたいと思っております。

私たちができること （青嵐荘つくし園）

東日本大震災により、青嵐荘つくし園では約二日間の断水・停電となりました。利用者の皆様はテレビ等からの情報が得られない不安さや暖房が使用出来ないことによる寒さを体感しました。約二日間とはいえ、ライフラインが止まることによる生活の不便さや余震の影響から精神的な負担が募り苛立ちを見せる方もおりました。

しかし復旧後、テレビ等から被災地の状況を目の当たりにすると、利用者の気持ちに変化が現れ、今『私たちが出来ること』を各々が考え節電や節水、募金等をするようになりました。また、当法人による北茨城市の避難所へ炊き出しボランティアに行く際は、利用者より「私たちも何か出来ることをしたい」という話があり、職員・利用者同じ「想い」を共有し被災地へ向けた応援メッセージを綴った横断幕を作成しました。

今、つくし園では利用者一人ひとりが一日でも早い復興を願って、『私たちが出来ること』を実行し被災者の方々へ『想い』を送り続けています。



EPA介護福祉士候補者 受け入れ二年目を迎えて

当法人では、フィリピンより二名の介護福祉士候補者を受け入れております。二年目を迎える候補者達を支える担当職員に熱い意気込みを語って頂きました。

青嵐荘特別養護老人ホーム 富張副主任事務員

二年目を迎えて

『世界貢献』自分には何が出来るでしょうか。EPA(日比経済連携協定)に基づくフィリピン人介護福祉士候補生を平成二十二年十一月から二名受入れています。三年間という短期間でどれだけ日本の福祉を知ることが出来るのでしょうか。日本語という壁もあります。今は仕事をしながら、毎日一時間日本語で日誌を書き、自己学習をしています。初めは日誌も一行程度でした。しかし、今ではすらすらと書きます。また、早稲田大学大学院の中村先生を招き、毎週一回二時間程度、日本語の授業を行っています。候補生には、仕事と勉強の両立はとても大変なことでしよう。介護福祉士の国家試験合格はもっと難しいものだと思います。しかし私達は必ず合格させなければなりません。なぜなら日本の素晴らしい福祉を世界に広げるチャンスだからです。『日本の福祉が世界に飛び出す』これが世界貢献。日本の福祉は『文化』であり『心』。その理念を理解し継承する。それが私達の使命です。日本の福祉を世界に広げる計画を今実行しているのです。



候補者へのインタビュー 貴方の夢をきかせてください

ラモス シェイミー・L・B 介護員

私は日本に来た時、最初、なんでここに来たのか」と聞かれたら私自身よく分かりませんでした。しかし今では、沢山の事をやりたいと思っています。私は介護福祉士の国家試験に本当に受かりたいと思っています。なぜならば日本に長く住みたいからです。その夢を叶えるため精一杯頑張ります。青嵐荘特別養護老人ホームの職員達は、いつも私達の勉強を支えてくれます。だから絶対にその夢を叶えます。皆の為に私は頑張ります。



アレホ ショアン・E・M 介護員

私は千人もいる希望者の中からEPAに選ばれた幸運な人間です。青嵐荘の一員である事に誇りに思います。家族と離れて一人で暮らし、新しい事を学ぶのは決して簡単な事ではありません。それを続けるのは、介護福祉士になつて日本で働くという夢を叶えるチャンスだからです。介護を必要とする人達の力になりたいです。将来、日本で自分の家族を持ちたいです。家族は私のように、この美しい国で素晴らしい経験をすることで、色々な所に出掛けたり、旅行をしたいです。また、フィリピンにも家を建てるという夢もあります。夢を叶える為にも勉強や仕事を一生懸命頑張ります。



地域貢献への取り組み 〔芳香会職員アンケート〕

既報の通り、芳香会では「クリーニング作戦」や「老人クラブとの交流会」など、様々な「地域貢献」に取り組んでおります。

そこで、職員の地域貢献事業に関する意識や関わりなどを明らかにするため、「地域貢献事業」に関するアンケート調査を実施しました。

【質問の形式・概要】

常勤職員及び週三十時間以上勤務の非常勤職員(総数四百二名)に対し記名自記式質問票を配布。その中で基本属性のほか、「地域貢献活動への参加状況」「地域貢献活動のアイデア」「地域貢献活動へ協力できる能力」について問いた【質問に対する主な回答の内容】

(問) 地域貢献活動として、どんなことができると思いますか

交流	美化清掃	環境エコ	地域参加	教室講座	イベント	募金寄贈
130名	73名	70名	42名	40名	40名	40名

(問) あなたは地域貢献活動に対し、どのような能力が提供できますか

類型	具体的な記載内容
既存事業関連	花壇の管理、リサイクル活動
生活援助関連	介護支援、地域での見守り活動
医療的サポート	健康チェック、マッサージ
子育て支援	絵本読み聞かせ
スポーツ・芸術関連	ダンス、音楽、絵画、手芸
その他	調理、パソコン指導

尚、この結果を踏まえ、芳香会では年2回、赤十字血液センターの協力のもと、職員や地域の方々を対象に「献血」を実施することとしました。結果は後日、お知らせ致します。

芳香会活動報告

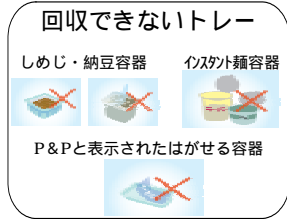
「子育て応援企業表彰」受賞しました

平成二十二年度「茨城県子育て応援企業表彰・仕事と子育て両立部門」にて奨励賞を頂きました。平成十七年から次世代育成行動計画をかかげ、託児所の設置や子育て支援補助金の支給等、子育てをしながらの就業を応援してきた結果だと嬉しく思っております。

また当法人では女性が七十%、男性が三十%を占めています。今後は、女性だけでなく男性職員にも育児休暇を取得して貰えるよう、広報・啓発活動に努めます。

発泡スチロールトレー回収をはじめます

平成二十三年五月より、発泡スチロールトレーの回収を各事業所にて開始します。食材の容器としてよく目にする物なので、回収・参加しやすい3R活動です。トレーは(株)エフピコ関東リサイクル工場での原料ヘリサイクルされ、CO2排出量を三分の二に抑えることができます。良く洗い、乾燥させていただければ回収できますので、ご協力のほどお願い致します！



真空調理を開始しました

真空調理は、下処理した食材と調味液をフィルム袋に入れ密封し、材料に応じた時間・温度設定により調理する方法です。旨味が増し柔らかく仕上げることが出来ます。「刻み食の方へ

の常食と同じ物の提供」のため、平成二十三年三月より導入しました。東日本大震災の際には停電施設への提供等、導入して間もなく予想以上の活躍が生まれました。



募金活動に協力ありがとうございました

当法人では、東日本大震災で被災された皆様、また被災地の復興を願いました。ご利用者様及びご家族様、職員など多くの方々にご賛同頂き、たくさんの方の支援金を送金することができました。皆様からの多大なご協力に感謝いたします。

送金先

【茨城県災害復旧対策・復興事業義援金】	
募金活動	431,127円
リサイクル活動収益金より	50,000円
【NPO法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード】	
リサイクル活動収益金より	50,000円

芳香会スケジュール

- 五月十六日 上大野地区植栽活動
- 三十日 本採用辞令交付式
- 六月 二日 芳香会献血事業
- 中旬 結城地区クリーニンググリーン作戦
- 下旬 個人情報保護推進研修会
- 七月 下旬 職員福利厚生お楽しみくじ
- 下旬 第三者委員会

編集後記

新年度二ヶ月目を迎え、考え行動することの大切さを痛感しました。震災地への小さな活動を実施できたのも関わりを持つ人達の協力があって、その暖かな心に触れる事ができ感謝に耐えません。今後モ被災地への活動を続けて行きます。(光)

マスローの欲求階層説では、最下層が「生理的欲求」、その次が「安全の欲求」である。そして今、この欲求が満たされず多くの人が苦悩している。命あることに感謝し、上ではなく前だけ向いて歩いていこう。(酒)

突然子供のおねじょが復活。思い当たるのは震災。普段は元気ですが余震はとも不安そう。気付かぬ内に影響を受けており、守らなければと強く思いました。幸い一ヶ月程で収まりました。そして被災地の子供達の事を考えました。(房)

社会福祉法人 芳香会

発行責任者/法人事務局 編集/会報誌作成委員会

〒306-0201 茨城県古河市上大野698

TEL 0280-97-1027(代) FAX 0280-97-1112

ホームページ <http://www.houkoukai.or.jp> メールアドレス honbu@houkoukai.or.jp